

第6 令和5年度企業会計決算の状況

企業会計は、県が独立採算性を原則とする企業的色彩の強い事業を行う際に、法律や条例によって設置するもので、地方公営企業法の全部又は一部の適用を受ける公営企業の会計をいいます。

企業会計は、公共の福祉を目的とするとともに、企業の経済性を発揮することも求められており、その経理については、地方公営企業法の定めるところによります。

この会計方式は、一般のいわゆる官公庁会計が現金主義により経理されるのに対し、発生主義に基づく複式簿記により経理される点で大きく異なっています。

三重県では、公共の福祉を増進するため、水道事業、工業用水道事業、流域下水道事業、病院事業の4事業の経営を行っていますので、以下、それぞれの企業会計ごとに、その決算状況を説明します。

1 水道事業の概況

営業関係では、北中勢水道用水供給事業（北勢系・木曾川水系：給水能力80,300³／日、北勢系・三重水系：給水能力51,000³／日、北勢系・長良川水系：給水能力18,000³／日、中勢系・雲出川水系：給水能力81,416³／日、中勢系・長良川水系：給水能力58,800³／日）及び南勢志摩水道用水供給事業（給水能力139,850³／日）の2事業を運営し、令和5年度は県内18市町に対し、延べ78,040,425³の給水を行いました。

令和5年度の営業成績について、事業収益は9,170,961千円（対前年度比101.9%）で、内訳は、営業収益8,193,010千円（対前年度比101.1%）、営業外収益967,488千円（対前年度比107.9%）及び特別利益10,463千円（対前年度比皆増）であり、また、事業費用は9,169,991千円（対前年度比102.7%）で、内訳は、営業費用8,906,068千円（対前年度比102.8%）及び営業外費用263,923千円（対前年度比99.0%）です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差額970千円が当年度の純利益となりました。

一方、改良事業では、地震等の災害に備えるとともに水道用水の安定供給を図るため、北中勢水道用水供給事業及び南勢志摩水道用水供給事業において耐震化や老朽化対策などの施設改良を計画的に実施しました。

令和5年度損益計算書 (令和5年4月1日～令和6年3月31日)

(単位：千円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	8,906,068	営業収益	8,193,010
原水及び浄水費	2,562,557	給水収益	8,188,341
配水費	697,699	その他営業収益	4,669
業務費	379,360		
総係費	344,755		
減価償却費	4,508,877		
資産減耗費	412,821		
営業外費用	263,923	営業外収益	967,488
支払利息及び企業債取扱諸費	194,184	受取利息	361
受託工事費	69,462	他会計補助金	38,863
雑支出	277	受託工事収益	69,462
		長期前受金戻入	857,033
		雑収益	1,770
		特別利益	10,463
		その他特別利益	10,463
当年度費用合計	9,169,991		
当年度純利益	970		
合 計	9,170,961	合 計	9,170,961

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

令和5年度損益計算書<P/L> (令和5年4月1日～令和6年3月31日)

(単位：千円、% (構成比))

借 方	貸 方
営業費用 8,906,068 (97.1%)	営業収益 8,193,010 (89.4%)
営業外費用 263,923 (2.9%)	特別利益 10,463 (0.1%)
当年度純利益 970 (0.0%)	営業外収益 967,488 (10.5%)
合 計 9,170,961	合 計 9,170,961

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

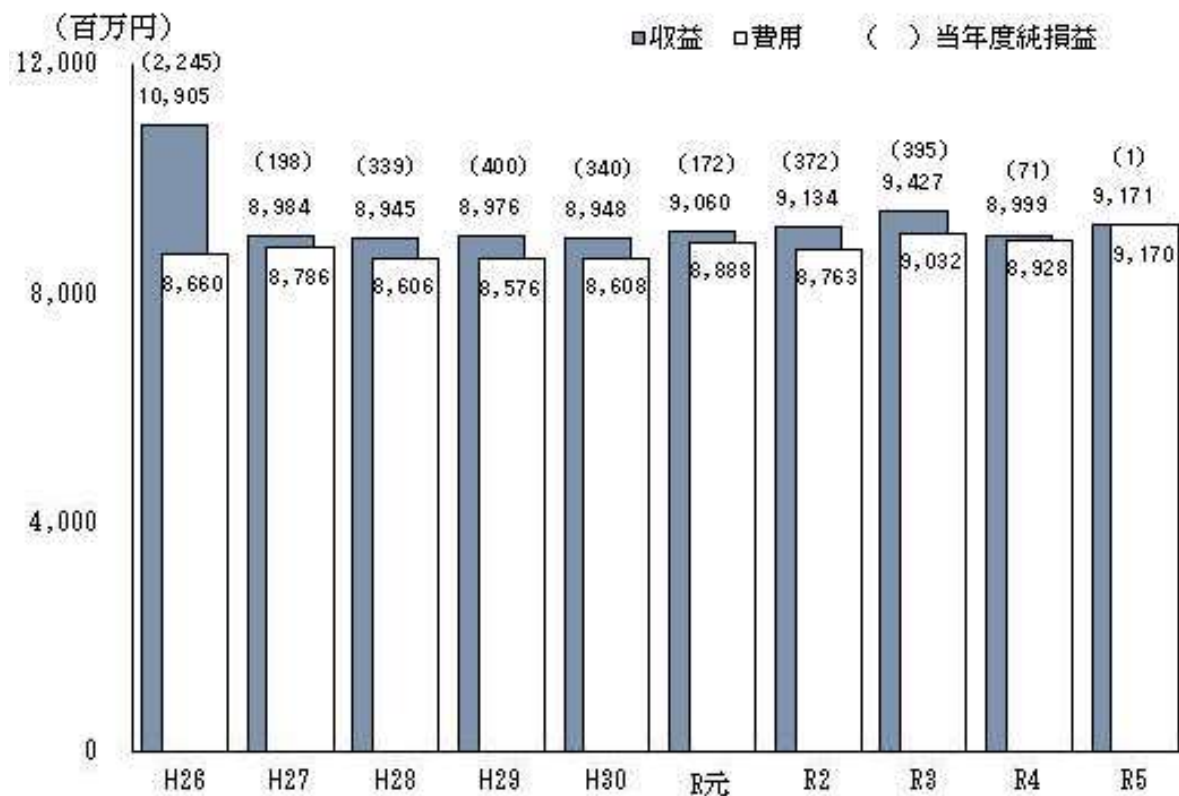
貸借対照表<B/S> (令和6年3月31日現在)

(単位：千円、% (構成比))

借方	貸方
	固定負債 10,429,851 (8.3%)
	流動負債 2,402,146 (1.9%)
	繰延収益 20,744,270 (16.4%)
	資本金 91,722,025 (72.7%)
固定資産 115,560,579 (91.5%)	剰余金 941,233 (0.7%)
	資本剰余金 869,153
	利益剰余金 72,080
流動資産 10,678,946 (8.5%)	
合計 126,239,525	合計 126,239,525

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

年度別の総収益・総費用の推移



(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

2 工業用水道事業の概況

営業関係では、北伊勢工業用水道事業（契約水量 754,990 m³/日）、中伊勢工業用水道事業（契約水量 14,970 m³/日）及び松阪工業用水道事業（契約水量 38,500 m³/日）の3事業を運営し、県内企業の生産活動における水需要に応えるため、令和5年度においては104工場に対し、延べ211,805,559 m³の工業用水を供給しました。

令和5年度の営業成績について、事業収益は5,833,817千円（対前年度比100.6%）で、内訳は、営業収益5,434,544千円（対前年度比100.1%）、営業外収益388,810千円（対前年度比105.2%）及び特別利益10,463千円（対前年度比皆増）であり、また、事業費用は5,757,020千円（対前年度比100.8%）で、内訳は、営業費用5,552,081千円（対前年度比100.4%）、営業外費用204,939千円（対前年度比112.9%）です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差額76,796千円が当年度の純利益となりました。

一方、改良事業では、地震等の災害に備えるとともに工業用水の安定給水を図るため、北伊勢工業用水道等の老朽化施設の更新・補強工事など施設改良を計画的に実施しました。

令和5年度損益計算書（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

（単位：千円）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	5,552,081	営業収益	5,434,544
原水及び浄水費	1,838,477	給水収益	5,206,083
配水費	239,478	その他営業収益	228,461
業務費	273,055		
総係費	340,995		
減価償却費	2,800,481		
資産減耗費	59,597		
営業外費用	204,939	営業外収益	388,810
支払利息及び企業債取扱諸費	164,361	受取利息	516
受託工事費	40,093	他会計補助金	3,632
雑支出	485	受託工事収益	40,093
		長期前受金戻入	341,087
		雑収益	3,482
		特別利益	10,463
		その他特別利益	10,463
当年度費用合計	5,757,020		
当年度純利益	76,796		
合 計	5,833,817	合 計	5,833,817

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

令和5年度損益計算書<P/L> (令和5年4月1日~令和6年3月31日)

(単位:千円、%(構成比))

借方	貸方
<p>営業費用 5,552,081 (95.2%)</p>	<p>営業収益 5,434,544 (93.1%)</p>
<p>営業外費用 204,939 (3.5%)</p>	<p>特別利益 10,463 (0.2%)</p>
	<p>営業外収益 388,810 (6.7%)</p>
<p>当年度純利益 76,796 (1.3%)</p>	
<p>合計 5,833,817</p>	<p>合計 5,833,817</p>

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

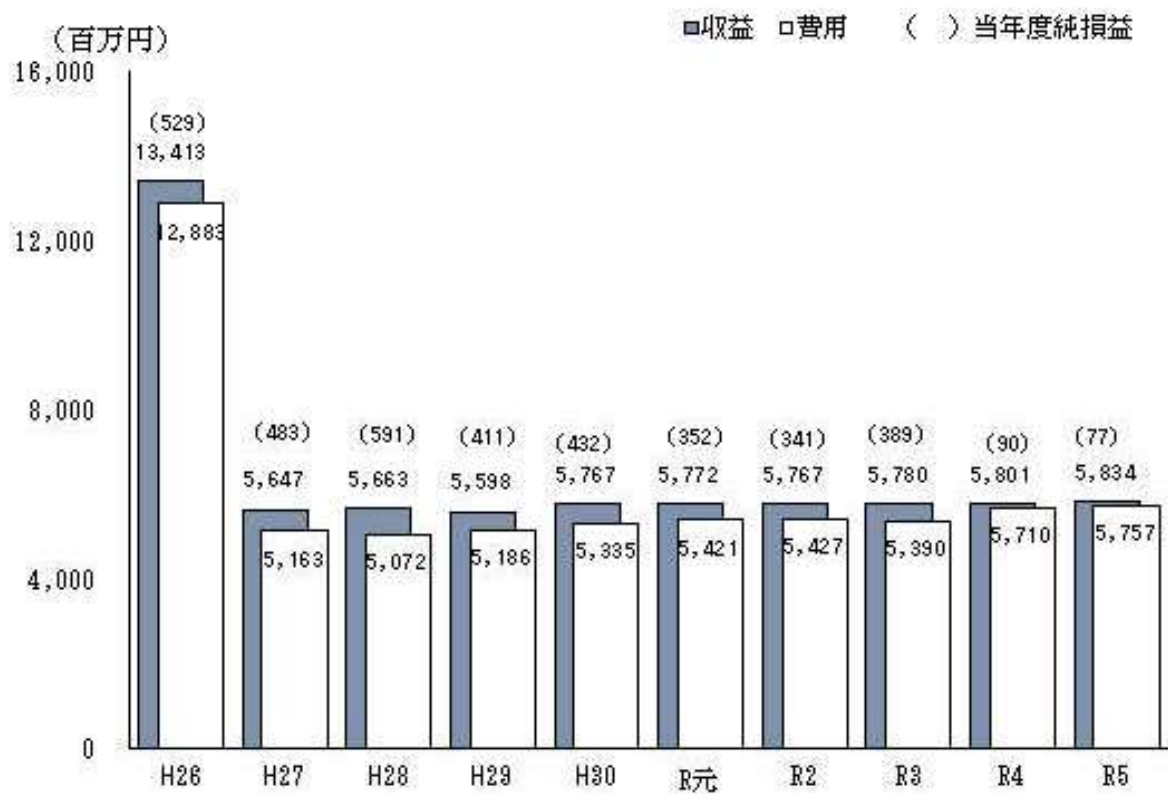
貸借対照表<B/S> (令和6年3月31日現在)

(単位:千円、%(構成比))

借方	貸方
	<p>固定負債 24,955,167 (20.5%)</p>
	<p>流動負債 1,752,661 (1.4%)</p>
	<p>繰延収益 16,364,454 (13.4%)</p>
<p>固定資産 114,133,706 (93.7%)</p>	<p>資本金 77,394,084 (63.5%)</p>
<p>流動資産 7,728,592 (6.3%)</p>	<p>剰余金 1,395,933 (1.1%)</p>
	<p>資本剰余金 1,228,734</p>
	<p>利益剰余金 167,199</p>
<p>合計 121,862,298</p>	<p>合計 121,862,298</p>

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

年度別の総収益・総費用の推移



(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

3 流域下水道事業の概況

営業関係では、北勢沿岸流域下水道事業（北部処理区：処理能力149,500m³/日、南部処理区：処理能力64,600m³/日）、中勢沿岸流域下水道事業（志登茂川処理区：処理能力11,300m³/日、雲出川左岸処理区：処理能力40,200m³/日、松阪処理区：処理能力39,000m³/日）及び宮川流域下水道事業（宮川処理区：処理能力26,800m³/日）の3流域6処理区を運営し、令和5年度は県内15市町からの汚水84,894,097m³を処理しました。

令和5年度の営業成績について、事業収益は13,104,541千円（対前年度比100.3%）で、内訳は、営業収益5,661,408千円（対前年度比103.2%）、営業外収益7,443,133千円（対前年度比98.2%）であり、また、事業費用は13,009,450千円（対前年度比100.4%）で、内訳は、営業費用12,392,062千円（対前年度比101.4%）、営業外費用547,841千円（対前年度比90.9%）及び特別損失69,546千円（対前年度比55.3%）です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差額95,091千円が当年度の純利益となりました。

一方、改良事業では、公共用水域の水質保全と生活環境の改善を図るため、流域下水道の整備を推進するとともに施設の老朽化対策など施設改良を計画的に実施しました。

令和5年度損益計算書（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

（単位：千円）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	12,392,062	営業収益	5,661,408
管渠費	37,951	維持管理負担金収益	5,661,408
ポンプ場費	97,780	その他営業収益	—
処理場費	4,640,027		
総係費	135,965		
減価償却費	7,433,392		
資産減耗費	46,949		
その他営業費用	—		
営業外費用	547,841	営業外収益	7,443,133
支払利息及び企業債取扱諸費	513,652	受取利息及び配当金	—
雑支出	34,189	他会計補助金	544,947
		長期前受金戻入	6,853,512
		雑収益	44,674
特別損失	69,546	特別利益	—
その他特別損失	69,546	その他特別利益	—
当年度費用合計	13,009,450		
当年度純利益	95,091		
合 計	13,104,541	合 計	13,104,541

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

令和5年度損益計算書＜P/L＞（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

（単位：千円、%（構成比））

借 方	貸 方
	営業収益 5,661,408 (43.2%)
営業費用 12,392,062 (94.6%)	
営業外費用 547,841 (4.2%)	営業外収益 7,443,133 (56.8%)
特別損失 69,546 (0.5%)	
当年度純利益 95,091 (0.7%)	
合計 13,104,541	合計 13,104,541

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

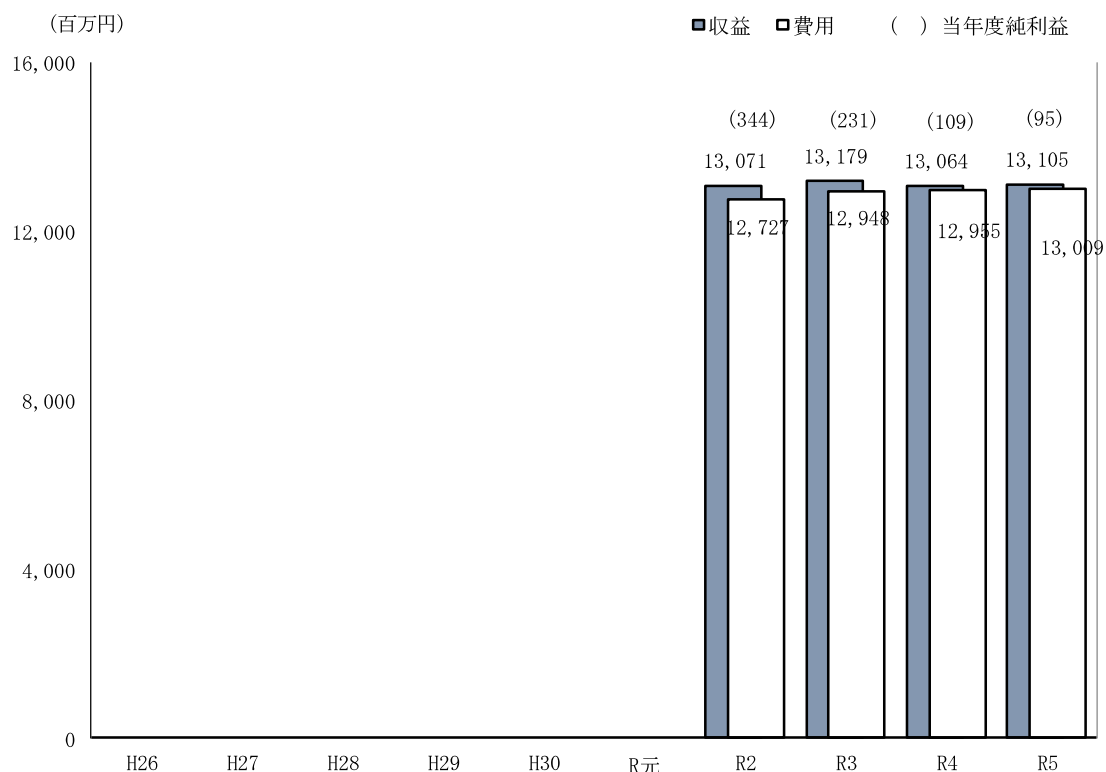
貸借対照表<B/S> (令和6年3月31日現在)

(単位：千円、% (構成比))

借方		貸方	
		固定負債	35,100,837 (14.8%)
		流動負債	7,169,803 (3.0%)
固定資産	232,672,664 (97.8%)	繰延収益	165,576,087 (69.6%)
		資本金	9,752,702 (4.1%)
流動資産	5,246,461 (2.2%)	剰余金	20,319,696 (8.5%)
		資本剰余金	19,673,832
		利益剰余金	645,864
合計	237,919,125	合計	237,919,125

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

年度別の総収益・総費用の推移



(四捨五入のため、差引が合わない場合があります。)

※令和2年度から地方公営企業法の一部を適用しているため、令和元年度以前の損益情報はありません。

4 病院事業の概況

三重県病院事業においては、こころの医療センター、一志病院及び指定管理者制度を導入している志摩病院の3病院を管理運営し、県民の皆さんや地域に信頼され、かつ医療従事者にとって魅力ある病院づくりを進めながら、良質で満足度の高い医療サービスを提供しているところです。

令和5年度は、こころの医療センターにおいては、県内の精神科医療の中核病院としての取組など、一志病院においては、総合診療医を中心としたプライマリ・ケアの取組など、それぞれの役割やニーズに応じた病院運営を行うとともに、経営の健全化に取り組みました。志摩病院においては、指定管理者である公益社団法人地域医療振興協会により、診療機能の充実を図りながら、志摩地域の中核病院としての取組を進めました。また、新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナウイルス」）に関しても、感染患者の受入れやワクチン接種、検査などに関係機関と連携しながら対応しました。

これらの3病院の運営状況については、入院患者数が延べ148,724人（1日平均406.3人）、外来患者数が延べ117,457人（1日平均483.4人）で、前年度に比べ入院患者数は延べ7,737人の増加、外来患者数は延べ6,796人の減少となりました。

収益については、新型コロナに係る国からの交付金が減少したことなどにより、医業外収益が減少したことなどから、経常収益は5,265,667千円となり、前年度に比べ8.9%減少しました。

また、費用については、医業費用において減価償却費等が増加したことなどから、経常費用は5,313,787千円となり、前年度に比べ1.1%増加しました。

その結果、これらを差引した経常損益は48,120千円の赤字となりました。また、長期前受金等に係る過年度損益修正益として特別利益2,937,625千円を計上したことから、純損益は、2,889,504千円の黒字となりました。

なお、建設改良費については、こころの医療センターにおける東病棟内部改修工事や一志病院における照明設備改修工事、志摩病院におけるX線透視撮影装置一式の購入等により総額375,767千円を執行しました。

令和5年度損益計算書（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

（単位：千円）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
医業費用	5,095,700	医業収益	2,418,268
給与費	2,725,936	入院収益	1,841,275
材料費	251,577	外来収益	431,813
経費	1,505,790	その他医業収益	145,180
減価償却費	591,990		
資産減耗費	8,469		
研究研修費	11,937		
医業外費用	218,088	医業外収益	2,847,399
支払利息及び企業債取扱諸費	75,080	受取利息配当金	39
長期前払消費税償却	27,335	他会計補助金	123,963
患者外給食材料費	179	長期前受金戻入	313,727
雑損失	115,495	補助金	6,552
		負担金	2,209,751
		その他医業外収益	193,367
特別損失	-	特別利益	2,937,625
当年度費用合計	5,313,787		
当年度純利益	2,889,504		
合 計	8,203,292	合 計	8,203,292

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

損益計算書＜P/L＞（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

（単位：千円、%（構成比））

借 方		貸 方	
医業費用	5,095,700 (62.1%)	医業収益	2,418,268 (29.5%)
医業外費用	218,088 (2.7%)	医業外収益	2,847,399 (34.7%)
特別損失	-	特別利益	2,937,625 (35.8%)
当年度純利益	2,889,504 (35.2%)		
合 計	8,203,292	合 計	8,203,292

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

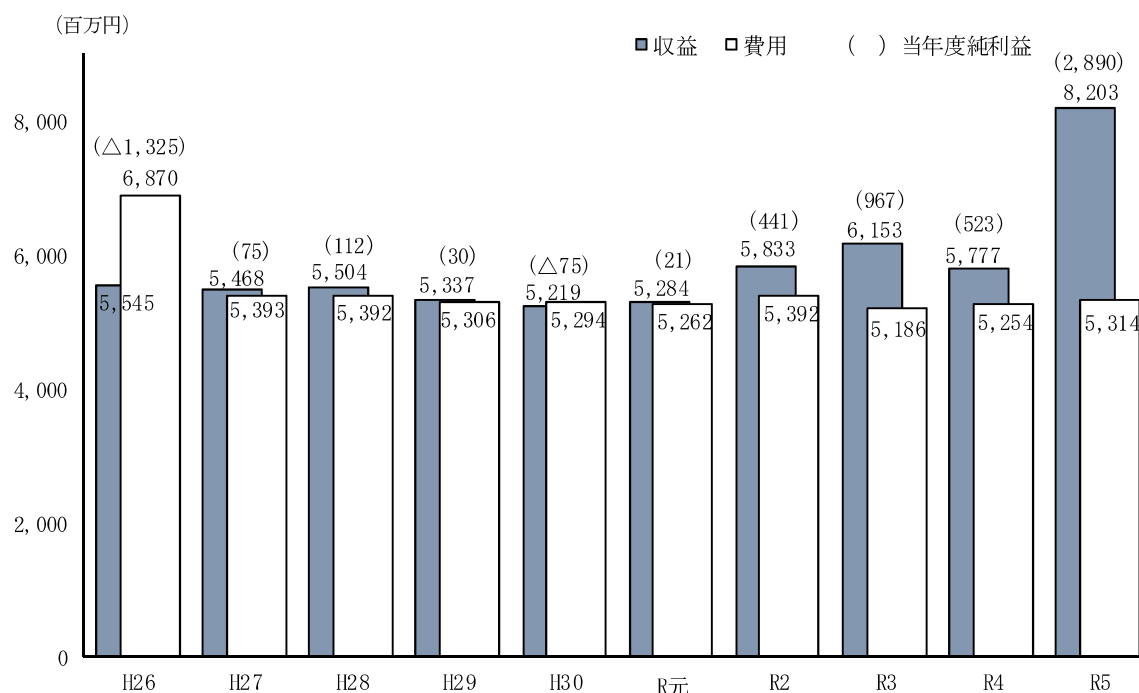
貸借対照表<B/S> (令和6年3月31日現在)

(単位：千円、%(構成比))

資 産		負債・資本	
固定資産	7,694,271 (76.9%)	固定負債	10,459,863 (104.5%)
		流動負債	1,265,115 (12.6%)
		繰延収益	996,811 (10.0%)
		資本金	311,410 (3.1%)
流動資産	2,310,895 (23.1%)	剰余金	△3,028,031 (△30.3%)
		資本剰余金	1,371,559
		欠損金	4,399,590
合計	10,005,167	合計	10,005,167

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

年度別の総収益・総費用の推移



(四捨五入のため、差引が合わない場合があります。)